

授 業 概 要

分 野	専門基礎分野	科目名	解剖生理学 I	担当講師	濟 昭道
実施年次	1 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間
科目設定のねらい 人間の身体の基本構造とその成り立ちを理解するために解剖生理学のための基礎知識を学ぶ。そして、生命活動を営むために重要な役割を果たしている細胞が正常に機能するためには内部環境の恒常性が維持されていなければならないため、恒常性（ホメオスタシス）を維持するためのはたらきを理解するための基礎知識を学ぶ。					
時間	単元目標	主 題	内 容	指導方法	
2	1. 人体の構造と機能の基礎知識が理解できる 解剖生理学テキスト 第 1 章	1. 解剖生理学への導入	1)形からみた人体 2)素材からみた人体 3)機能から見た人体 生命維持システム 運動調節システム	講義	
2	2. 生命の維持機能について理解できる 第 1 章 C ②、9 章 D  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">看護形態機能学</div>	2. 内部環境の恒常性  3. 生命維持と生活行動	1) 体液の分類と量 2) 体液の電解質 3) 血漿の PH 4) 動脈血酸素分圧 5) 血漿の糖分 6) 体温 1) 生命維持と環境	講義	
12	3. 生体内の物質の流通機構が理解できる 解剖生理学テキスト 第 3 章 血液のはたらき 4 章 循環器系	3. 恒常性維持のための物質の流通	1) 流通の媒体 (1)血液の恒常性の維持 (2)物質の運搬 (3)侵入物に対する防衛 (4)血液凝固 2)流通路 (1)血管・リンパ管 (2)脾臓 3)流通の原動力	講義	
12	調節機構について理解できる 第 6 章 内分泌系による調節 ホルモン分泌の調節 第 8 章 神経系 (感覚器系含む)	4. 恒常性維持のための調節機構	1) 神経性調節 (1)受容器 (2)中枢神経 (3)末梢神経 (4)情報伝達 2)液性調節 (1)ホルモンの作用機序 (2)ホルモン分泌の調節 (3)恒常性維持のためのホルモンののはたらき	講義	

2	試験		3) ストレスと恒常性の維持	
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 菱沼典子著 第4版 看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会			
参考文献	系統看護学講座 専門分野 成人看護学③ 循環器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学④ 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑦ 脳・中枢神経 医学書院 小寺豊彦著 楽しく学ぶ 看護につながる解剖生理学改訂版 照林社			
評価方法	筆記試験			